

2023年度 事業計画書

1. 基本方針

痛風・尿酸及びその関連疾患における我が国の研究は世界最高水準にあると考えられる。その発症機序や治療に関する調査研究並びに支援を行うために、引き続き事業活動を行う。新型コロナウイルス感染症が社会に大きな影響を与えて3年となるが、研究者を支える資金は依然厳しい状況が続き、当財団はこれ等研究者への支援助成を事業の中核とすると共に、医師や医療関係者を対象とした教育研修の実施を通じて痛風・尿酸に関連する疾患の医療の質の向上と発展を目指し、一般国民への啓発活動を活動の柱とし、国民保健の向上へ寄与することを基本理念として運営する。

2. 計画内容

(1) 研究助成

・ 対象者

痛風・尿酸・核酸代謝に関する研究でその研究成果が疾患及び病態の成因と治療・予防に有用な影響を与えると期待される臨床的或いは基礎的な研究課題を挙げる団体・共同研究グループ 及び個人。

・ 対象分野

痛風・尿酸・核酸代謝に関する臨床又は基礎分野で特色のある研究と一般的研究を対象として広く応募を受け付ける。特に優れた研究業績や研究計画に対しては「痛風・尿酸財団賞」を授与する。

・ 受付期間：2023年9月1日より同10月31日

・ 助成金総額予定 500万円

・ 選考方法

専門分野などを考慮して理事会で選定した選考委員に理事長が委嘱し選考を行う。各選考委員は提出された応募資料の研究課題を予め採点し、その集計結果をもとに12月初旬の選考委員会に於いて審議を行い助成対象者と個々の助成金額を決定する。

・ 研究成果の検証

当該助成による研究成果検証のために、2025年4月までに関係論文の提出を求める。

(2) 第34回 痛風・尿酸研修会

痛風・尿酸研修会は2023年9月10日(日)に開催する。この研修会は全国

の医師や薬剤師などの医療関係者を対象とし、痛風や尿酸などについての研究成果に関する講演と診断や治療についての研修を行い、更に講師との質疑応答を通じて理解を深めることで診療普及に役立てている。形式については、昨年好評だったWeb形式を含めこれから検討する。プログラム等の詳細は6月頃までに決定し公表する。

(3) 痛風協力医療機関の拡充

患者や一般の方からの問い合わせでは医療機関の紹介依頼が最も多い。「何科の診療を受けたら良いか」「専門の医師が診療に当たっている医療機関は何処か」などの相談に対し、全国の約120ヶ所の痛風協力医療機関を紹介している。しかし、当財団の協力医療機関は東京や大阪など大都会に集中しており、地域によっては要望に応えるには十分とはいえない。研修会参加医師への呼びかけや関係者からの紹介などを通じて協力医療機関を増やすよう努めて行く。

(4) ホームページによる啓発事業

財団ホームページのページビュー数も年間150万件近くなっているが、今後さらにより多くの人々に痛風や尿酸などの基礎知識から最新情報、協力医療機関、処方された薬などの情報が分かりやすく閲覧できるように改訂を行いたい。

(5) 小冊子「尿酸値をコントロールする」及び会報の発行

尿酸値に関する情報などを要約している小冊子への要望は多く、協力医療機関などを通じて希望する患者やなどに行き渡るように対応して行く。又、研究成果や最新医学情報などを掲載した会報は1月に発行し賛助会員や関係者へ送付することで情報伝達を計っていく。

(6) その他

患者・家族・一般の方からの質問や問い合わせは引続き多く、その内容は医療機関の紹介依頼から始まり食事や飲料に関する注意点や痛風の治療薬など多岐に亘る。各々の質問に対しては痛風協力医療機関の紹介や専門分野の医師の助言を伝えている。一方で、製薬会社や医療機関などからの寄付や賛助会員数は減少傾向が続いているので、このような啓発活動と平行して寄付や賛助会員の入会の案内なども実施して行きたい。

以上